

足尾散策の旬の旅情報満載!

「足尾」まち歩き冬号

日光市役所足尾総合支所観光経済課
〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原1番19号 電話:0288-93-3116 FAX:0288-93-4783
日光市ホームページ http://www.city.nikko.lg.jp

「あしおを歩く」冬号では、足尾の東部神子内(サコウチ)方面と北部松木方面をご案内します。

なお、右の略図は明治40年参謀本部陸地測量部(現、国土地理院)が測量、明治43(1910)年に発行した万分の1の地図を参考にしたもので100年前の神子内を通る馬車鉄道を現わしています。

現在でも神子内川左岸を中心に渡良瀬へ地蔵坂間8kmのうち道形がわかる箇所が約2km残されています

裏面は廃村となった旧松木村への案内です。冬の松木村を歩くには帽子やほっかいろうなど防寒対策が不可欠です。安全確認を十分にして事故等のないように歩いて下さい。

☆東部 神子内(サコウチ)方面を歩く☆

① 渡良瀬 (わたらせ)

このあたりを渡良瀬といひます。渡良瀬川、わたらせ溪谷鉄道など随所に使われている名称は、この地に由来するもので、命名は1200年前日光開山の祖勝道上人と伝えられています。

勝道上人とその弟子が足尾を訪れたとき、激流で渡れる渡れる所を探していたところ、ここに来てよりやく渡れる所があったので、この地を「渡るのに渡り瀬」から「渡良瀬」と呼ぶことになりました。

② 渡良瀬橋

川下にガガっている橋が、昭和10(1935)年に金鋼製橋からコンクリートアーチ橋に大改築された渡良瀬橋です。痛みが激しくなり、上流に新橋をかけたが、貴重な構造といひこととで修景保存されています。

当初は鉄橋でしたが、一部鉄骨を抜き、そのまゝコンクリート構造に変えた珍しい橋です。

③ 渡良瀬川

上流に向って左の川が渡良瀬川です。少し上流で神子内川と合流する全長108kmの河川で、埼玉県、栗橋近くで利根川に合流します。

鉱毒事件の元となった川ですが、今は清流がもどり、魚も生息しています。

④ 物資輸送基地 渡良瀬

足尾銅山では、明治14(1881)年から相次ぐ直利の発見により、産銅量が一気に増えましたが、それにともない銅山で採り出された銅、燐、硫黄も大量に必要になりました。

そこで、明治23(1890)年に輸送力を確保するため、索道や軽便馬車鉄道をのりこめました。

そして、ここ渡良瀬を輸送基地として位置づけ、町内外各方面へ延びる軽便馬車鉄道網25kmを整えました。

※直利(鉛入り)：銅を少量に含んだ銀鉄。



⑤ 木村長兵衛功業の碑台座

駐車場南面にある石橋は、銅山隆盛に大貢献した身代銀長木村長兵衛功業の碑が建てられていた台座です。第二次世界大戦のさなご、銅でできた碑は、軍事用として供出され、台座だけが残されました。碑文の拓本が掛水倶楽部に残されています。

⑥ 渡良瀬発電所跡(放水跡)

東側、左にある水跡は、かつてこの地にあった渡良瀬発電所の放水跡です。

明治23(1890)年完成の足尾木村発電所の発電では、中禅寺湖を水源とする日光発電所完成ののりこ役として明治34(1901)年に完成した出力220kWの発電所でしたが、大正末期に廃止されました。

⑦ 栃木県立足尾高等学校跡

境内の照明カンテラの燃料「カービト」をつくる工場が当初この地にあり、工場が廃止された後、昭和8(1933)年に、古河足尾銅山工業学校(大正2年創立)が、本山小学校から移転して来ました。

昭和19(1944)年足尾工業学校となり、昭和23(1948)年足尾実科高等学校(明治45年創立)と合併、足尾町立足尾高等学校になりました。さらに昭和25年栃木県立となり、夜間部(1948~1979)も設けられましたが、平成19年3月末日卒業生9,141人を送り出し、94年の幕を閉じました。

⑧ 足尾高校グラウンド(連合軍捕虜収容所跡)

昭和15(1940)年、この地に足尾銅山工作課分工場が操業を開始しました。しかし、軍需品生産に使う大型機械は難く、昭和18年小山に移転しました。

その跡地に、連合軍捕虜収容所が建てられ、ドイツ、フランス、ハンガリー、ポーランドなどヨーロッパ系の人々約200名が収容されていました。戦後、連合軍が帰国した後、一時中国の方が入居していましたが、昭和21(1946)年解体され、高校グラウンドになっています。

⑨ 豊潤洞(ほうじゅんどう)

日本を代表する明治新政府の外相、陸奥宗光の別邸を神奈川大磯から昭和4(1929)年7月移築、豊潤洞と命名しました。

陸奥宗光の二男「潤吉」が古河市兵衛の養子になったことが縁で、この地に移りました。大磯別邸は、下関講和条約の準備会設が行なわれたことでも有名です。
※注意※ 建物は朽ちており立入は厳禁です。

⑩ 軽便馬車鉄道敷跡(神子内川左岸あたり)

渡良瀬から細尾峠入口(栃木平)まで敷かれていた馬車鉄道の道跡(石橋み)が、川沿いのところどころに見ることが出来ます。

⑪ 糸尾索道跡(ほとおさくどうあと)

索道とは、ロープウェイ(架空索道、ケーブル)のことで、足尾では鉄索と呼んでいます。

日光市足尾側第1カーブ手前から旧日光市細尾まで約3.9kmの索道を明治23(1890)年日本で最初に架け、1時間に約3トンの荷物を運ぶことが出来ました。明治25年には、並行して第2索道を栃木平から架けています。

馬車鉄道は、明治40年測量当時の断面より記入したもので、現存するものはありません!! 道形がほとんど判る程度です。

廃村松木を歩く!!

この先落石のため危険!! 正入らぬように!!

☆おおよその区間距離

銅保水公園駐車場～松木ジャングル下
全長 約3.6km 約1時間30分

- 松木ジャングル下
- ↑ 400m
- 松木沢ゲート
- ↑ 300m
- ウメ沢
- ↑ 300m
- 日光森林管理署ハリポート
- ↑ 800m
- 松木沢砂利プラント
- ↑ 400m
- 国土交通省スーパーキャリア
- ↑ 450m
- 松木・仁田元作業道分岐
- ↑ 500m
- 久蔵・松木作業道分岐
- ↑ 200m
- 足尾砂防ダムゲート ← 3km 間藤駅
- ↑ 200m
- 銅保水公園駐車場

鉱山用語 - IIメモ

「カラミ(鏡)とは?」
銅を製錬するときにできる不純物で、溶けてものを急冷すると、細かくなります。鉄分を多く含んでおり、セメント材料によく使われました。
また、急冷したもので、砕きに入れた面角のものをカラミ煉瓦(レンガ)といい、愛宕下の防火壁に使われています。

文化9年3月吉日とあり、今から約200年前(1812年)に建立されたこととなります。

特に注意が必要です!!

足尾砂防ダムゲートから先は、全て治山・砂防・砂利採取のための作業用道路です。通行の安全確保は、全て各自の責任で行って下さい。

12月から3月まで、トイレはダムから1.5km下流の赤倉広場(古河橋)までありません。冬期間閉鎖です。要注意!!

松木村から移された大石灯籠(天保15年1844年)と噴煙(享和2年1802年)が並んでいて、とても栄えていたことがわかります。

- ### 松木(松木地域旧三村)のできごと
- 七九〇 延暦9 勝道上人の弟子が松木開拓を始める
 - 一六一〇 慶長15 足尾銅山発見(既に60年前に発見?)
 - 一八五三 嘉永6 二宮尊徳、足尾来訪 松木村37戸88人 仁田元村5戸20人 久蔵村13戸56人
 - 一八七七 明治10 足尾銅山が古河市兵衛の経営に
 - 一八八一 明治14 松木村36戸 畑30ha 農業収入三〇〇〇円 本山麓、栗坑で直利発見
 - 一八八四 明治17 機械坑導入 直利橋製錬所新設 煙害が大きくなる
 - 一八八五 明治18 松木村を除く北部5ヶ村煙害永久示款
 - 一八八七 明治20 四戸松木村から出火。北部一帯の山林 住宅も焼失。その面積約11km² 中津寺明の面積に匹敵
 - 一八九〇 明治23 足尾銅山四大工事竣工(細尾索道、直利橋、水套式溶鉱炉、間藤水力発電所)
 - 一八九一 明治24 鉱毒問題を田中正造が国会で初質問
 - 一八九二 明治25 松木村約27人が住み農耕を続ける
 - 一八九三 明治26 バッセル式製錬法の導入で煙害が増加
 - 一八九五 明治28 古河と松木地権者示談成立
 - 一八九七 明治30 鉱毒予防工事命令により硫磺塔完成 かねて煙害が上がり、収穫がほとんどなくなる
 - 一九〇〇 明治33 松木農議会上に人命救助請願提出
 - 一九〇一 明治34 国会へ30戸(全戸)の署名で人命救助 請願を提出
 - 松木で足尾銅山水権取扱請求訴訟を おこす(敗訴)
 - 松木村住人24戸移転合意、23戸先渡確定
 - 松木村廃村
 - 一九〇二 明治35 松木村廃村
 - 一九一四 大正3 久蔵村に銅山長屋4棟建つ
 - 一九二二 大正12 久蔵長屋を愛宕下(赤長屋)に移す
 - 一九五四 昭和24 足尾砂防ダム完成
 - 一九五六 昭和31 自落製錬法導入と硫酸工場の完成により 亜硫酸ガスの排出がなくなる(日本初) 本格的な治山工事が始まる
 - 一九七三 昭和48 足尾銅山閉山
 - 一九八一 昭和56 昭和30年松木無縁墓移設に続き、仁田元 久蔵の無縁墓を赤倉山龍蔵寺に移す
 - 一九八九 平成元 輸入鉱石の製錬を止めた足尾製錬 錬所が事業上の操業を停止